

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和2年度 第2回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局(担当課)		庶務課
開催日時		令和2年12月23日(水) 午前9時30分～午後12時
開催場所		豊島区役所 教育委員会室(本庁舎8階)
議 題		評価対象事業のヒアリング及び質疑応答 ① 不登校対策事業の強化 ② 外国人の就学対策
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	細谷 美明 木村 文香 岩井 由美子(敬称略)
	その他	教育長、教育部長、学務課長、指導課長、教育センター長
	事務局	庶務課長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
細谷委員長	<p>それでは、これより第2回教育に関する事務の点検・評価委員会を開催いたします。</p> <p>まず、事務局より、本日の傍聴について報告をお願いします。</p>
副島庶務課長	<p>本日の傍聴希望者はありません。議事の第1、教育に関する事務の点検・評価の実施について、説明をお願いします。</p>
細谷委員長	<p>それでは議事に進みます。議事の第1、「不登校対策事業の強化」について、齊藤教育センター長、説明をお願いします。</p>
齊藤教育センター長	<p>【資料1「不登校対策事業の強化」の説明】</p>
細谷委員長	<p>ありがとうございました。説明は以上となりますが、各委員はご意見ご質問等ありましたらよろしくお願ひいたしました。</p> <p>それでは、木村委員をお願いします。</p>
木村委員	<p>資料拝見させていただいたところから、サポート体制という点では、10日以上という設定が、集中的に把握しており、事態が大きくなる前に対応できている点がすごいと感じております。その上で、登校支援シートについて三つほど質問させてください。まず一つ目ですが、教育センターで集めたあとの使い方、アクセスできる方、どういう機能の方なのか。ブリーフィングしたあとの学校等の活用、継続的に活用される方はどのように活用しているのかお聞きしたいです。</p>
齊藤教育センター	<p>ありがとうございます。学校側の要望や早期発見、早期対応が重要となり、指導課との連携が大切になりますので、日頃から密に連携しております。教育センターが集約しているのですが、基本的に教育センターと指導課で確認できるようになっております。昨年度から「長期欠席者対策プロジェクト」、教育センターの中で、まずは、いったん学校側の手立てとして適切なのか、必要な機関、スクールカウンセラーが関わって子ども達への支援できているのかについて定期的に会議を設け、その結果を学校側にフィードバックしております。もう少しこういう関わりがあると手厚いんじゃないか、この段階にきたら適応指導教室に繋がたらいいのかなど、そのような形をとっています。</p> <p>もう一つは、昨年度までは小・超学校全校で不登校対策会議を開いてもらい、その中には必ず管理職・スクールカウンセラーが出席してもらい、そのほか指導担当の先生が出席し、登校支援シートをもとにして意見交換をしてもらいました。今年度はコロナ禍ということもあり、本当に必要であろうという子どもがいる学校に対して教育センターから学校にお願いして会議を開いてもらいました。先日も、ある学校の5年生と6年生で対応が必要な子どもに対して、学校と担任の先生にお願いして会議を開いたという状況でございます。</p>
木村委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>あと資料5で拝見した登校支援計画の目標のところなんですけど、「B</p>

<p>齊藤センター長</p>	<p>コースに格上げ」という表現がありますが、Aコースが一番最初の目標で、その次にBコース、Cコースが3段階目というイメージでしょうか。</p> <p>こちらですね、ゆずの木教室に入ることが決まった子どもにまずは目標をどこに置くか、保護者も交えて決めております。結構エネルギーがあって、すぐ学校に復帰できる子もいるため、そういった子はAコースを選んでもらって、ゆずの木教室の中でも時間割を組んで、いつでも学校に復帰できるような計画を敷いて取り組むのはAコースです。Bコースについては、すぐには学校復帰が難しいだろう、年度替わりとか、卒業後に復帰できるような、新しい自分の進路に向けて、しっかりエネルギーをためて、将来的に社会的な自立を目指すコースです。ゆずの木に定期的に通って来られて、自信を少しずつつけた場合は、学校復帰を目指して次はこんな取り組みをしていこうか、適応指導教室の先生の声を受けて、目標を決めていくものです。Cコースですが、なかなか朝起きれない、昼夜逆転してしまう家からなかなか出られないといった子ども達がゆずの木教室を利用する場合にはですね、ゆずの木教室からどんなアクションを起こせるか、ゆずの木教室にきたときもまずはどういう活動しながら生活習慣を身に着けさせて、そのあと、Bコース・Aコースに繋げていけたらと考えていくコースです。これは今年度から始めているところでございます。</p>
<p>木村委員</p>	<p>ありがとうございます。分かりやすいです。こういうコース設定になっていると本人たちからすると次になにをすればいいのを見やすくなっております。</p> <p>中学校卒業後の関係機関が大切になってくると思います。結構保健センターに繋ぐケースがございますが、資料の中の関係機関に保健センターが入っておりません。そこでですが、豊島区の中学卒業後の繋ぎ先としての関係機関はどのようなものがあるか教えていただけますか。</p>
<p>齊藤教育センター長</p>	<p>中学校卒業後ですが、教育センターは、教育相談で高校3年生まで来られますので、ゆずの木教室に入る際に必ず教育相談もセットで受けております。子ども担当と保護者担当ということで別々の相談員が必ず入るようになっております。今年度、ゆずの木教室の心理士を一人置きましたので、こちらの方がメインに関わるような形になっているのですが、元々教育相談に繋がっておりますので、まずは教育相談を通して継続的に関わるようになっております。ただ、そういったところになかなか関わっていない、進路自体がなかなか定まっていないうちのお子さんもいらっしゃいますのでそういったおさんは、区の子ども家庭部にあります「アシス豊島」に継続的に関わっていただきたいとお願いをしております。うまく繋がっていくケースはわずかですけど、早いうちに繋いでサポートしていきたいと考えております。</p>
<p>細谷委員長</p>	<p>はい、副島庶務課長</p>
<p>副島庶務課長</p>	<p>「アシス豊島」というのが子ども家庭部にございまして、子ども、若者の総合相談センターで、どんな相談も受けており、年齢も35歳までということで、年齢とか相談内容にこだわらない窓口を設けております。そこと教育センターとの連携が大事だということを区長部局も認識しております、中学3年生の前半のあたりから、引継ぎというか、情報共有をしたいということで、3年ほど前から努力しているところでございます。ただ、なかなか区長部局と教育センターの連携体制がうまくいっていない状況でございます。努力をしている最中でありまして、個人</p>

	<p>情報等様々な問題がありますけど、ご本人からの申請で次の相談所というか、中学校3年生のうちに繋がりを作って、豊島区に住んでいる限りはその方の情報を持ち続けると言わないと、ひきこもりになって50代で発見されたということになりかねませんので、そこは問題意識をもって取り組んでいるところです。以上、補足させていただきました。</p>
木村委員	<p>ありがとうございます。</p>
細谷委員	<p>はい、指導課長</p>
佐藤指導課長	<p>登校支援シートの件ですけど、今年度東京都で行っている学校のインクルーシブ教育システムに関する研究に関連して豊島区でも特別支援教育に関する研究を行っております。引き続いて、来年度ということで2年間研究をお願いする中で、不登校に関する支援シートと学校の中で子どもに対する個別の支援というならば特別支援教育に関するシートも作っていて、必ずしも重なるものではありませんが、不登校の背景同様に、本当に多様な背景要因があるということから重なるケースもないわけではありません。学校からすると、登校支援シートを活用していくといったときには、見えにくいところがある一方で、特別支援教育の個別のシートを作る中でそれに対しても見えにくいところがありますので、必ずしも一つにすることが良いことではありませんが、これをどうにか相互活用できないかというところを研究まではいきませんが検証したいと考えております。学校の中の負担感という点からすれば、そこをシェアしていくところが、子どもたちへの支援につながるのではないかとということで、東京都のご支援を受けながら、やっていくところでございます。</p>
細谷委員長	<p>はい、ありがとうございました。 木村委員よろしいでしょうか。</p>
木村委員	<p>ご質問させていただいた以上に丁寧に説明してくださり、ありがとうございました。</p>
細谷委員長	<p>ほかにご質問ございますか。私からも何点か質問させていただきます。 適応指導教室、それに絡めて移動教室、かなり体験活動を中心に実施されていることが分かりました。適応教室は移動教室も医者は入られておりますか。連携の中に医療機関があると思うのですが、こうした実際の場合ではどうでしょうか。</p>
教育センター長	<p>メンバーですが、元校長、SSW、教育相談で関わっている心理士の方、看護師がついております。昨年度ようやく子ども達を引率する教員が増えたような経緯がありまして、3泊4日と長いということもあり、初日乗り越えたと子どもたちのコミュニケーションが進み、4日間頑張れるというところでございます。昨年度の最終日、エネルギー切れの子どもがいましたが、保護者の方にお願いしまして、最終日だけ一緒に同行してもらってうまく過ごせました。手厚く大人によるサポート体制を組んで連れて行っている状況でございます。</p>
細谷委員長	<p>なぜこんな質問をしたかと言いますと、最近不登校の原因の一つとして、「起立性調整障害」が挙がっております。これは、医者でないと見た</p>

	<p>目の判断が難しいということがあり、看護師がいればアンケートとかとれば分かるかもしれませんが、適応指導教室にも医療的な知識が必要な部分が必要かと思いました。看護師を配置しているということで、すでにそういった意識があるので、安心しました。もう一点、心理士が移動教室や適応指導教室についているということですが、その他にアンケート調査等に結果によると、社会性の欠如が挙げられますが、社会性を身につけるための適応指導教室や移動教室のプログラムに入れているんでしょうか。</p>
<p>齊藤教育センター長</p>	<p>「SST（ソーシャルスキルトレーニング）」を今年度からスタートさせました。SSWの中に「公認心理士」を持っている方がおりまして、SSTを定期的に行っていて、子ども達自身が自分自身が保ってきたなというのを実感していると、成果として挙がっているなと感じています。体験についてですが、地域のボランティアの方を定期的と呼んでおりまして、昨年度は生け花ですとか、伝統工芸士などに来ていただいて図工をしたりしております。また、音楽が好きな子どももいるので、今後は東京音楽大学の学生のボランティアにきていただくようなことを検討しております。ぜひ子どもたちにより多くのいろいろな方と接する時間を作り出していきたい</p>
<p>細谷委員長</p>	<p>ありがとうございます。体験は非常に重要なんですが、私の持論にはなりますが、体験をさせたら子どもに必ず振り返りをさせること、そして加えて評価をしたり、それぞれの専門家がアドバイスをしあげることが大切だと思います。そういうのをセットとしてやっていただきたい。</p> <p>私も大学の中で、学生達にアサーティブトレーニングなどを行って人との付き合いを身に着けてもらったり、それからロールレタリングという日本少年院で開発されたプログラムなんですけど、結構中学校で取り入れられているトレーニングですが、自己をみつめるトレーニングをしております。適応指導教室や移動教室の中でも、自己をみつめる時間を場面を作って、子どもがみつめた部分を大人が見てあげるといったことも考えてもらえればと思います。</p> <p>それでは、多岐にわたる議事となりましたが、この議事は以上とさせていただきます。</p> <p>次の議事に進みます。</p> <p>議事の2番目「外国人の就学対策」について田邊学務課長、説明をお願いいたします。</p>
<p>田邊学務課長</p>	<p>【資料2「外国人の就学対策」の説明】</p>
<p>細谷委員長</p>	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>以上、説明が終わりました。各委員、ご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。</p> <p>はい、木村委員お願いいたします。</p>
<p>木村委員</p>	<p>まず、一点ですが、子どもや保護者へのサポートのところで、文化的なサポートをどのようにされているのかというのはよく分かったのですが、宗教とか文化とは判別がつかなくて一番苦労しているのは担任の先生ではないかなと思います、担任の先生のサポート体制がどうなっているのか教えてください。もう一つ、通訳に関連してお伺いしたいのです</p>

	<p>が、今年度クロームブックが配付され、インターネット環境が整備されている中で、今後、言語や出身が多岐にわたる中で、アプリの活用等についてお伺いしたいと思います。</p>
細谷委員長	<p>それでは教育センター長お願いします。</p>
齊藤センター長	<p>担任へのサポートについてですが、教育センターの日本語指導教室に通っている子どもにつきましては、日頃直接教えている先生が、在籍校コーナーというのがありまして、学校生活の中で子ども自身が困っていることとか、例えばなかなかお風呂に入らないといった文化の違いなどがあったり、担任の先生もコミュニケーションに困っているといった声も聞くことがあります。そういう担任の先生が困っているときですが、教育センターに非常勤の通訳の方がおりますので、生活指導上の困難な時とか友達とのトラブルのときに学校に行ってもらい、通訳に入ってサポートを行ったりしております。</p>
細谷委員長	<p>クロームブックのアプリはどうでしょうか</p>
齊藤センター長	<p>オンラインで面談できるようになりましたので、いまオンラインでどういう形で日本語指導できるか実験的に実施しているところです。学校内で別室を設けて、普段の50分の時間より短くするといった工夫をして、子ども達にどんなサポートをできるか検討しております。まだ、通訳にタブレットが一台という状況にはなっておりませんので、通訳をオンラインの形で行うことはしておりませんが、今後の課題だと認識しております。色々な言語の方に教育センターに登録だけはいただいているので、なかなか経験したことがない言語の場合は英語の通訳だけは派遣させていただいて、完全ではないけども、英語であれば多少は分かるという子どももおりますので、何とか通訳で対応しておりますが、ぜひ教育委員会全体でも検討して進めていきたいと思っております。</p>
細谷委員長	<p>ありがとうございます。 はい、指導課長お願いします。</p>
佐藤指導課長	<p>直接指導にあたる先生は、語学が堪能というわけではありませんので、そのあたりについて改善を行うべく、前回の「教員の研修」で説明させていただいた日本語指導の担当者との面談会を設置しました。その中で、先生たちが、実際の指導上の困っている部分とか、子どもたちの様子の情報交換、先生たちの横のつながりができるように、こちらから一方的に先生たちのスキルがあげるためにではなく、情報共有の場を設置しました。</p> <p>一方で、スキルもあげる必要がありますので、大学の先生も招いて、日本語指導をどのようにするかといったことではなくて、通常の学級に戻すための教科の学習の中で日本語を学んでいくことの大切さ、指導者が文化についてどういう風に一定の理解をして、子どもたちを関わっているかについてご講義をいただいて、本当そのとおりだなと実感している状況です。</p> <p>多国籍の子どもが多い学校では、日本語指導学級での在籍を希望する状況の中で独自で保護者同士のネットワークづくりを実施しております。言葉の壁以外に、例えば書類の確認や提出などの解釈が国によって異なったりしますので、単純に、行政が通訳を入れて、保護者に順番に伝えていくのではなく、ネットワークづくりを学校も努力している状況で</p>

木村委員	<p>ざいます。実際には保護者の方で通訳に入ってくれたり、PTA 活動について細かく説明したりなど、努力しながら作っております。</p> <p>大変よく分かりました。担任の先生の語学力とかそういうことではなくて、私自身の持論になるのですが、いわゆる分かりやすい日本語といった一文が短い話し方っていうのは、発達障害の方にとって分かりやすい話し方になるため、先生方に身に付けてもらうのは子ども達にとってプラスだなと感じております。子どもたちは、日本語をメインで学習してもらうことが大切だと思いますが、保護者や教員の方々の安心となりますので、ポケトークとかグーグル音声通訳とかの活用、人間味がない部分もありますが、いざという時のためにというところで、すでに使用している先生もたくさんいると思いますので、見える形で導入されているといいなと思います。</p> <p>あと、海外の方の言語習得を考えたときに、平仮名を読める方もいるんですけど、おしゃべりは意外上手だけども、まったく字が読めない方もいます。ローマ字ヴァージョンがあると、たぶんご案内を作られるときにさほどエネルギーゼロわけではないと思いますけど、翻訳するよりはいいのかなというところで、すべてにローマ字表記があると、もう少し対応が可能となる親御がいるのではないかなと思います。こちらは提案でございます。</p>
細谷委員長	<p>ありがとうございます。 今のご提案について何かありますか。</p>
田邊学務課長	<p>非常に参考になりました。今、区としても優しい日本語も一つ言語だという考え方を持って、研修などを行い、取り組んでいるような状況でございます。ありがとうございます。</p>
細谷委員長	<p>担任先生の支援ということで、翻訳アプリをまず何を言っているのか分からないといったところから言葉の問題がありますから、翻訳アプリを導入するといった措置も考えられるのかなと思いました。</p> <p>それからもう一つ、入学手続きの案内が日本語以外に英語と中国語しか対応していないため、これで大丈夫かなと不安に思ったのですが、いかがでしょうか。ミャンマーやネパールの方も多くて疑問に思うのですが、いかがでしょうか。</p>
田邊学務課長	<p>おっしゃるとおりです。英語、中国語だけでなく言語を増やしていきたいと考えております。非常に翻訳に経費がかかるということもあり、その中でいかに経費をかけずに取り組むことができるか検討しているところでございます。</p>
細谷委員長	<p>そのとおりですよ。そこで先ほどの話に戻りますが、多言語対応の翻訳アプリが手元にあると、すごく助かると思います。子ども関係のものだけでなく、生活に関するもの全部の情報の流れが欲しいんですけども、言葉が通じないために取り組めない現実がございますので、気持ちが続いているのかもしれないけど、言葉によるコミュニケーションがとれない、これを簡単にするためにもそういうアプリがたくさん出てきておりますのでぜひ検討していただきたい。</p>
副島庶務課長	<p>ICTの担当といたしましては、委員の方がおっしゃったようなグーグル</p>

細谷委員長	<p>翻訳アプリを実際に使っている先生もいるので、どういうものがあるか、どういう使い方ができるか、調べた上で学校の先生に情報提供をして、活用してもらおうと思います。お金がかかるものもあるかと思いますが、無料のものも探して、対応させていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>国籍をみたときにムスリムの方が増えているように思えるのですが、ムスリムの方の場合は食べ物も生活習慣も違うため、トラブルが起きているということを聞いております。ムスリムといっても国によって違いがあり、全てには対応しきれないといったことも聞くのですが、そのあたりについてどういう状況か教えてもらってよろしいでしょうか。</p>
田邊学務課長	<p>アレルギーのお子さんと同じように、栄養士が入って、食事の配慮を行っている状況でございます。</p>
細谷委員長	<p>引く続き対応よろしく申し上げます。</p> <p>あと、カトリックの信条を考えると同様の対応が必要になるかもしれませんね。</p> <p>はい、指導課長</p>
佐藤指導課長	<p>当然、食べ物も配慮しておりますし、宗教的に活動しないと時間については保障しております。別室を設けたりして対応しております。</p>
細谷委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかにございますか。</p> <p>それでは、本日は事務局から子細に富む話があったかと思えます。各委員におかれまして、事務局の説明をうけ、効率性・有効性の観点から評価を整理していただければと思います。</p> <p>事務局から連絡事項があれば、庶務課長お願いいたします。</p>
副島庶務課長	<p>それでは、次回の日程ですが、今回は令和3年1月7日（木）9時30分より開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>第3回の会場は南池袋小学校となりますのでどうぞよろしくお願い致します。</p> <p>詳細につきましては、改めてご連絡させていただきます。</p>
細谷委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>以上を持ちまして、第3回教育に関する事務の点検・評価委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">——— 閉 会 ———</p>

提出された資料等	<p>【資料1】 事業分析シート(不登校対策事業の強化)</p> <p>【資料2】 事業分析シート(外国人の就学対策)</p> <p>【説明資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 豊島区立教育センター要覧 ・令和2年度 教育センター組織目標「子ども・家庭・学校サポートの充実」 ・登校支援シート ・様式 欠席者一覧表 ・個別の支援計画(記入例)
----------	---

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・教育センターのスクールソーシャルワーカー(S SW)班の活動について・教育センターにおける教育相談班の活動について・令和2年度 外国籍児童・生徒数(学年・国籍別)・外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握等に関する指針・関係法令(参考)・保護者宛 入学手続きのご案内(日本語・英語・中国語)・就学先アンケート・豊島区日本語学習環境マップ・豊島区の日本語指導について <p>【参考資料1】教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱</p> <p>【参考資料2】教育に関する事務の点検・評価実施要綱</p> <p>【参考資料3】点検評価別添資料</p> |
|---|